

## 実践事例

(加古川市学力向上推進委員会作成)

○パイロット校（平岡南小学校と中部中学校）を中心に、協同的探究学習に基づく授業研究、単元や教材開発に先進的に取り組んでいます。

### 《小学校 6 年 算数》

#### 1 主題（単元）名・教材名

- 主題（単元）名  
「比例のきまりを見つけて生活に生かそう  
-伴って変わる2つの数量について考えよう①-」
- 教材名  
「比例と反比例」

#### 2 単元目標

主に「わかる学力」育成のねらい

- ・比例関係を見い出し、そのきまりを使って、言葉や式、表やグラフを用いながら、考え方を広めたり、深めたりして、問題を解決することができる。

#### 3 単元の指導計画（全 11 時間）

主に「わかる学力」育成の時間（第 1, 2, 11 時）  
○協同的探究学習に基づく学習活動（第 11 時）

##### （主な学習活動）

- ・比例のきまりを生かして、身の回りにある數えにくい物の数量を計算や表から考える。

##### （指導上の留意点）

- ・第 1 次で共有した課題「比例のきまりを見つけて生活に生かそう」を想起させ、身近な生活場面から問題解決に迫る。

#### 4 本時（第 11 時）の目標（わかる学力）（教科書 P142～P143）

- ・比例のきまりを生かして、全体のおよその数を求め、求め方を説明できる。

#### 5 本時の展開

##### （1）導入問題（課題）…アプローチ

- ・比例のきまりを生かして、数えずにキャップのおよその数の求め方を考えよう。

##### （2）個別探究 I …自己説明

###### ○児童生徒の主な思考の過程

- ・全体の重さを測って、1個の重さで割る。  
・1個や10個の重さは軽すぎなので、50個で測り、1個の重さを求める。

##### （3）協同探究 …関連づけ

###### ○児童生徒の主な学習活動

- ・式や表を使って比例のきまりを説明する。  
・表（縦の見方、横の見方）を使いながら、式の意味について、説明する。

##### （4）展開問題（個別探究 II）…本質理解

- ・学校全体で 11kg キャップを集めたいと思います。あと約何個集めるとよいでしょう。また、目標まで集めると、約何人分のボランティアグッズになりますか。自分の考えを説明しましょう。

##### （指導上の留意点）

- ・第 1 次で共有した課題「比例のきまりを見つけて生活に生かそう」を想起させ、身近な生活場面から問題解決に迫る。



#### Point 指導上の留意点

##### 【導入問題のポイント（よさ）】

- ・普段集めている大量のキャップで何人分のボランティアグッズになるかを提示し、全体の数を知りたいという必然性を感じさせる。

##### 【個別探究】での工夫ポイント】

- ・数種類の秤を用意し、少ない個数の重さを関連づけて考えさせる。

##### 【協同探究での工夫ポイント】

- ・比例のきまりと表、表と式を関連づけながら説明させ、発表内容の違いや共通点などについて、クラス全体で考えさせる。  
・キャップ 1 個の重さの違いをどうするかについて考えさせ、気づきを発表させる。

##### 導入問題

個別(個)	1	50	...	?
重さ(g)	2.2	110	...	6170

##### 【展開問題（個別探究 II）での工夫ポイント】

- ・見い出した比例のきまりとポスターの情報を生かして、必要な個数や人数を考えさせる。

### 《中学校 2 年 社会》

#### 1 主題（単元）名・教材名

- 主題（単元）名  
「九州地方 - 環境問題や環境保全の視点で - 」
- 教材名  
「環境保全のためのさまざまな取り組み」

#### 2 単元目標

主に「わかる学力」育成のねらい

- ・環境問題を産業や地域開発の動向、人々の生活などと関連づけ、持続可能な社会の構築のために環境保全の取り組みが大切であることなどについて考えることができる。

#### 3 単元の指導計画（全 5 時間）

主に「わかる学力」育成の時間（第 5 時）

#### ○協同的探究学習に基づく学習活動（第 5 時）

- （主な学習活動）  
・観光開発と自然保護の両立の方法を持続可能な社会の構築の観点から考える。

##### （指導上の留意点）

- ・地理的要因、歴史的要因など、多角的な視点から環境問題をとらえることができるよう、資料を提示する。

#### 4 本時（第 5 時）の目標（わかる学力）（教科書 P178～P179）

- ・沖縄の観光開発と自然保護の2つの立場を理解し、持続可能な社会の構築の観点から考えることができる。

#### 5 本時の展開

##### （1）導入問題（課題）…アプローチ

- ・3つの立場の意見（観光開発派、自然保護派、沖縄県外からの観光客）から、どの意見に共感できるか考えよう。

##### （2）個別探究 I …自己説明

###### ○児童生徒の主な思考の過程

- ・沖縄は観光産業で成立しており、ホテル建設は必要。  
・沖縄の魅力は豊かな自然。破壊してはいけない。  
・きれいなホテルに泊まって、観光を楽しみたい。

##### （3）協同探究 …関連づけ

###### ○児童生徒の主な学習活動

- ・観光開発、自然保護のそれぞれの立場から考えに至った根拠を説明する。  
・自分と異なる立場の意見を聞き、共感できること、プラス面とマイナス面などについて考える。

##### （4）展開問題（個別探究 II）…本質理解

- ・観光開発と自然保護を、持続的に両立していくためにはどうすればよいのか。  
・自分の考えを提案しましょう。

## わかる学力を高める

# 協同的探究学習 ガイド

必携

過去5年間の全国学力・学習状況調査からみた  
本市児童生徒の学力・学習状況

主に基礎的・基本的な知識・技能

### 「できる学力」

- ・全国平均と同程度で、基礎的・基本的な学習の成果が見られる
- ・課題が見られる部分もあるが、全国平均を上回る部分もあり、概ね良好な状態である  
(国語A) (算数/数学A)

学習に対する児童生徒の意識

- ・授業で学習したことが「将来役立つ」と思っている児童生徒や友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思っている児童生徒の割合が、全国と比べてやや低い傾向にある  
(児童生徒質問紙)

主に思考力・判断力・表現力等

### 「わかる学力」

- ・全国平均と同程度であるが、目的や意図に応じて、資料を基に自分の考えを書いたり、条件に合わせて適切に文章に書いたりすることに課題が見られる  
(国語B)

- ・全国平均と同程度であるが、図形や式を関連づけて論理的に考察したり、資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりすることに課題が見られる  
(算数/数学B)

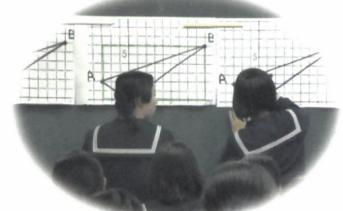
## 今後の方向性

### ○「わかる学力」育成に向けた取組の充実

### ○主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践



## 具体的な方策



## 協同的探究学習に基づく授業実践

協同的探究学習に基づく授業づくりにより

### ○「わかる学力」の育成

### ○主体的・対話的で深い学びにつながる授業の実現

加古川市教育委員会



【監修】加古川市学力向上推進委員会 顧問  
東京大学大学院教育学研究科 藤村 宣之 教授

## 「できる学力」と「わかる学力」

### 「できる学力」

○手続き的知識、スキル

- 答えや解法が決まった定型問題の解決
- 計算スキル
- 漢字練習
- 類題演習
- 繰り返し学習

○できることによる学習意欲の向上

順序立てた学習、適用学習  
個に応じた指導など

### 学力の両輪

### 「わかる学力」

○概念的理解、思考、深い理解

- 多様な考え方や解法が可能な非定型問題の解決
- 本質的理解
- 根拠や理由の説明
- 知識・技能の活用
- 関連づけによる思考の深まり

○わかることによる学習意欲の向上

## 協同的探究学習

**Point** ○「できる学力」と「わかる学力」育成のための指導法が異なっていることを踏まえ、単元構想（指導計画）を考える

**Point** ○**協同的探究学習**に基づく授業づくりにより、「わかる学力」の育成を図る

《単元構想（単元の指導計画）》【例】

### わかる学力の育成

### できる学力の育成

### わかる学力の育成

### できる学力の育成

### できる学力の育成

### わかる学力の育成

### わかる学力

の育成に向けた

### 1単位授業

の流れ

「できる学力」の習得に向けて

- 解法の手順や意味を確認する
- 適用学習、類題演習を充実させる
- 個に応じた指導を充実させる

できることによる学習意欲の向上

「できた」という経験は、手続き的知識、スキルが自動化することで、より速く、正しく答えようとする意欲を高める

## 協同的探究学習の進め方 (1単位授業の流れ)

### 1 導入問題

※多様な考え方や解法が可能な問題

《アプローチ》



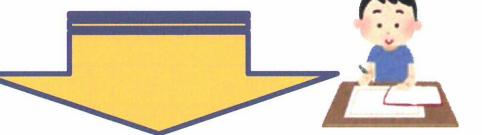
○一人一人が多様にアプローチでき、多様な考え方や解法が可能な問題提示

### Point

- 多様性、日常性
- 多様な知識を関連づけ、自分なりに解決可能な問題を提示する
- 主体的に解決できる問題を提示する

### 2 個別探究I

《自己説明》



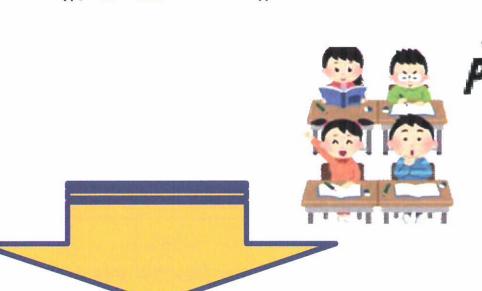
○思考のプロセスを重視する  
○根拠や理由、自分の考えをもつ

### Point

- 個々の考え方、解法を深める時間を確保する
- 多面向的な考え方、多様な解法を発見させる
- 個人内で既存知識と関連づけさせる

### 3 協同探究

《関連づけ》



○多様な考え方や解法の発表と関連づけをクラス全体で行う  
○共通点、相違点、根拠や理由、気づきを出し合う

### Point

- 児童生徒の言葉や表現を尊重し、根拠や理由を説明させる
- 教師が整理するのではなく、児童生徒が違いや共通点などに気づくよう支援する

### 4 展開問題

※多様な考え方や解法が可能な問題

(個別探究II)

《本質理解》



○協同探究場面での意見や考え方を生かし、自力解決を行う  
○学習内容の本質、ねらいに迫る

### Point

- 学習内容の理解の質を高める
- 協同探究場面で整理されたいいくつかの考え方から選択、統合し、学習内容の理解を深めさせる

わかることによる学習意欲の向上

知識を関連づけて「わかった」という経験は、知識構造が再構造化されることで知的好奇心や内発的動機づけが喚起され、もっとわかりたい、深く知りたいという意欲を高める